

# 父親の子育てに関する WEB アンケート調査

本研究班で実施した自治体における父親支援の実施状況に関する実態調査において、父親支援を実施している自治体は6.5%だった。父親支援を実施していない理由のうち「支援ニーズがわからない」という理由がもっとも多く、父親支援を実施していない自治体の半数以上を占めていた。父親支援の必要性は分かるが、何から実施したらよいか、父親が何を求めているか、そうしたことが分からず事業の実施に踏み切れない状況がうかがわれた。

近年、「父親のモヤモヤ」という言葉がメディアに登場するようになった。それは不安ともストレス、うつといったようなものとも少しちがう。自分の置かれた状況や日々のちょっとしたことへの葛藤や自己嫌悪、承認欲求などが入り混じったような感情を指す言葉である。父親の支援ニーズを把握する上で、この「モヤモヤ」を少しでも可視化できないものか、と考えた。本WEBアンケート調査の項目を考える際に、多くの父親を対象に夫婦関係や職場での状況など、様々な場面での「モヤモヤ」の聞き取りをおこなった。その結果を調査項目に反映させて、本WEBアンケート調査を実施した。

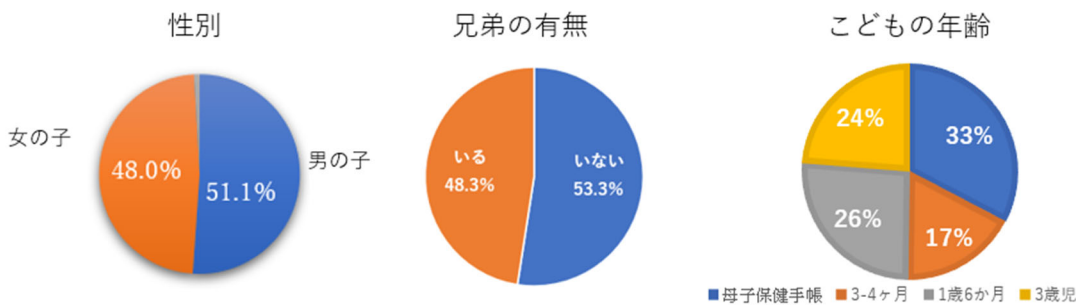
このWEBアンケート調査では、父親の産前・産後の「モヤモヤ」や支援ニーズを理解することを目的とした。全国から計60の市町村の協力を受け、妊娠期（母子健康手帳交付申請時）、産後の3-4か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診の際に父親に調査協力を依頼してもらい、それぞれ431人、234人、351人、321人の父親から回答を得た。

## 1. 対象者の属性

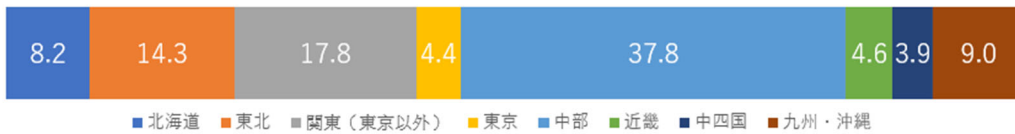
### 1-1. 父親の平均年齢

母子保健手帳交付時	33歳
3-4か月時点	34歳
1歳6か月時点	35歳
3歳時点	36歳

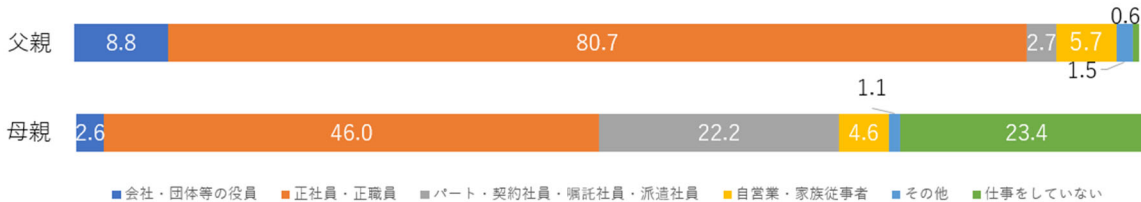
### 1-2. 子どもの年齢、性別、兄弟の有無



### 1-3. 居住地域\*



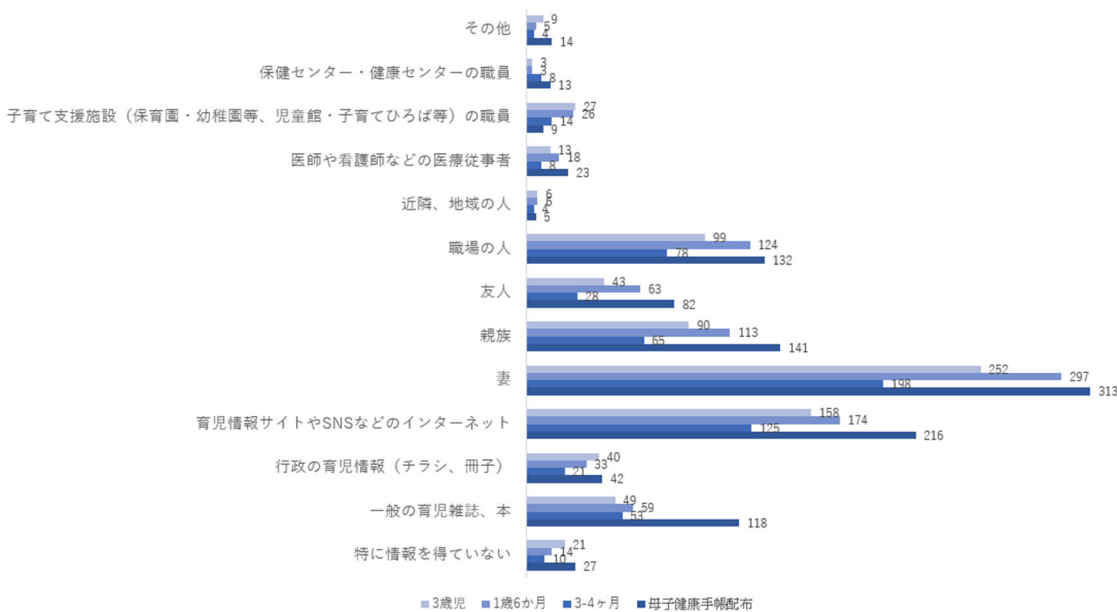
### 1-4. 就労状況



## 2. 情報収集

Q. あなたはどんな情報源や人たちから、子育てに関する情報を得ていますか？下記から、よく利用する情報源や、たずねる人を上位3つまで選択してください。

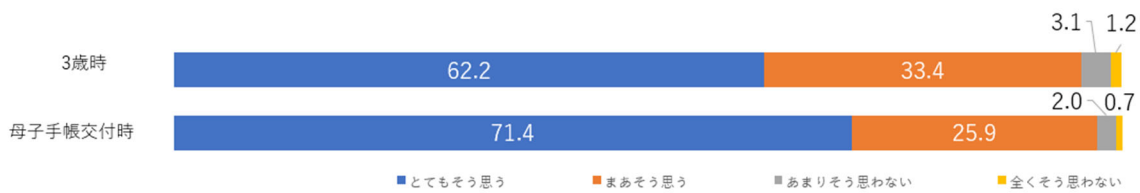
子育てに関する情報源で最も多いものは「妻」がもっとも多く、次に「育児情報サイトやSNSなどのインターネット」「職場の人」「親族」が続いた。



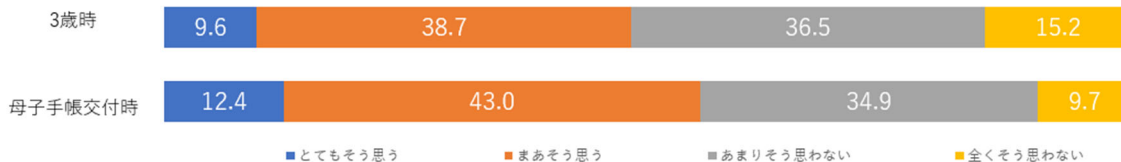
## 3. 家事、育児に関する考えと関わり

家事や育児を夫婦で分担して当然という意識は子どもが生まれる前は強く、子どもが大きくなるとその意識は弱まっている。「子どもが小さい時に母親は育児に専念した方が良いと思うか？」という質問の回答では、3歳児の父親は母子手帳交付時の父親よりも「あまりそう思わない」「そう思わない」と答えている人の割合が多い傾向がみられる。

## Q. 家事や育児を夫婦で分担するのは当然である

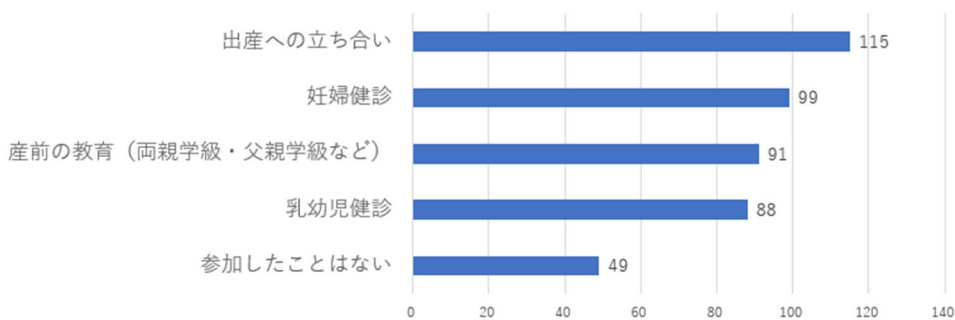


## Q. 子どもが小さいうちは、母親は子育てに専念の方が良い



## Q. 妊婦健診や産前の教育などに参加・立ち会い（3-4か月健診時）

出産に立ち会った人が最も多く 115 人、次に妊婦検診 99 人、産前の教室 91 人などが続く。またいずれにも参加したことはない人も 49 人おり、3-4 か月健診時の回答者数の 20.5%を占める。



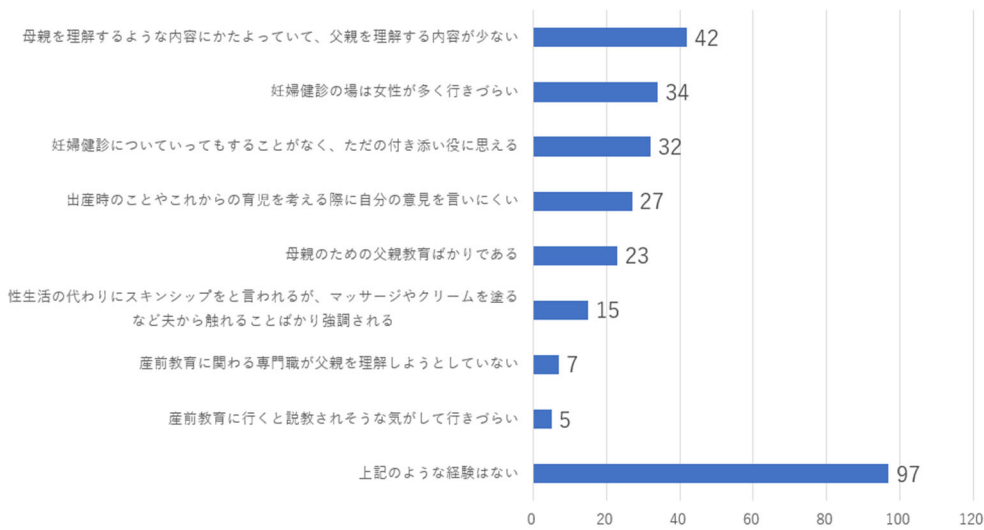
## 4. 父親のモヤモヤについて

父親が抱えている家事・育児中のモヤモヤについて、様々な種類に分けて把握に努めた。夫婦関係に関するモヤモヤが様々な事柄で頻繁に生じていることがうかがわれた。職場に関するモヤモヤでは、金銭面の保証が少ないことや、産後制度の説明が少ない、キャリアの保証が少ないことにモヤモヤする声が多かった。社会制度に関するものとして、父親が子育てしやすい環境が整っていないと感じる声や、父親の育児に関する情報が母親と比較して少ないと感じる声が多かった。

### 4-1. 産前の教育や妊婦健診に関するモヤモヤ

産前教育や妊婦検診に関してモヤモヤした経験をした人は、特に「教育の内容が母親を理解する内容にかかわっていて、父親を理解する内容が少ない」「女性が多く行きづらい」「ただの付き添いに思える」などの思いを抱いていた。そのモヤモヤはおよそ半数の父親が解消できていなかった。

**Q. 産前の教育や妊婦健診に関して、モヤモヤした経験はありますか？（3-4 か月健診時）**



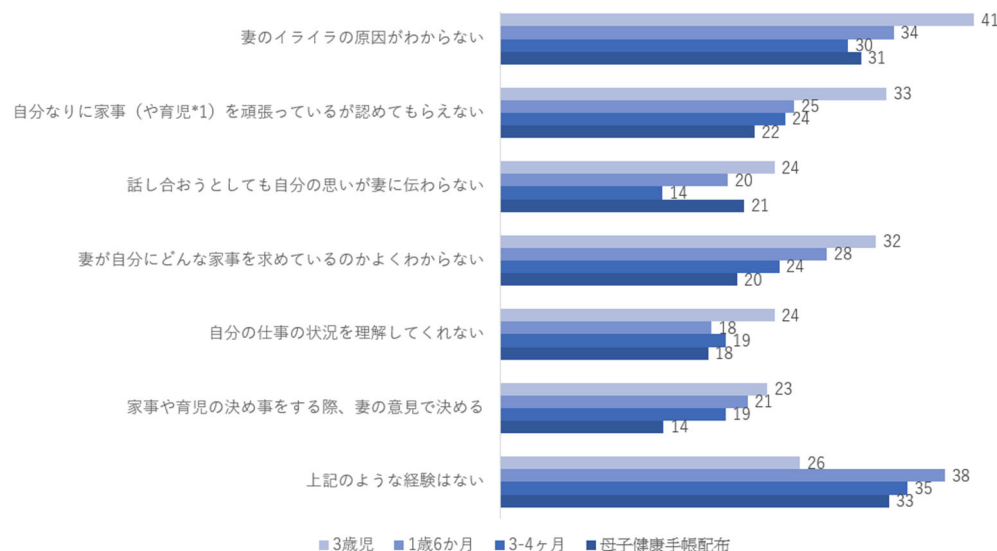
**Q. 産前の教育や妊婦健診に関して経験したモヤモヤは、解消できていますか？**



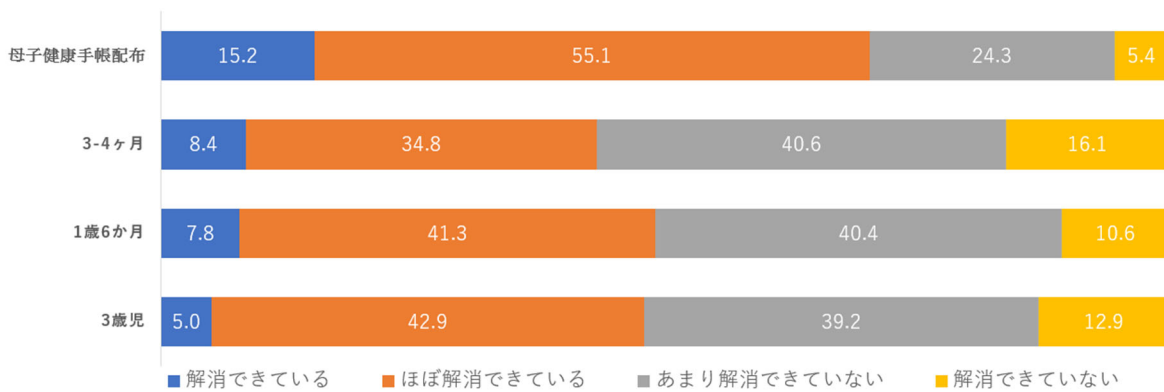
**4-2. 夫婦関係のモヤモヤ**

夫婦関係に関するモヤモヤは、すべての項目で子どもが大きくなるにつれて増えていた。特に「妻のイライラの原因が分からない」や「自分なりに家事育児を頑張っているが認めてもらえない」「妻が自分にどんな家事を求めているのかよくわからない」の項目で大幅にモヤモヤの割合が高くなっている。これらの項目は母子手帳交付時においてからモヤモヤを経験している人の割合が高かった。モヤモヤの解消に関しては母子手帳交付時には「解消できている」が15.2%、「だいたい解消できている」が55.1%だったが、3-4 か月時には「解消できている」が8.4%、「だいたい解消できている」が34.8%と減少していた。

Q. 夫婦関係に関して、この半年間にモヤモヤした経験はありますか。下記から経験あるものすべてを選択してください。



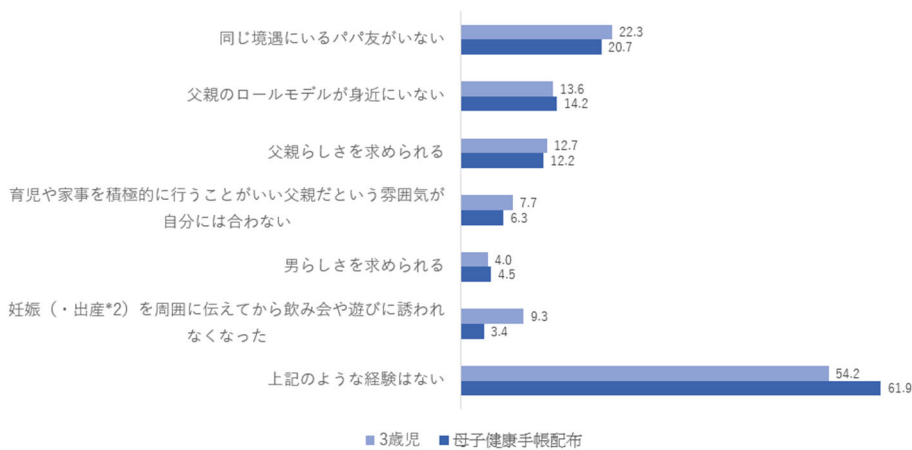
**Q. 夫婦関係に関して経験したモヤモヤは、解消できていますか？**



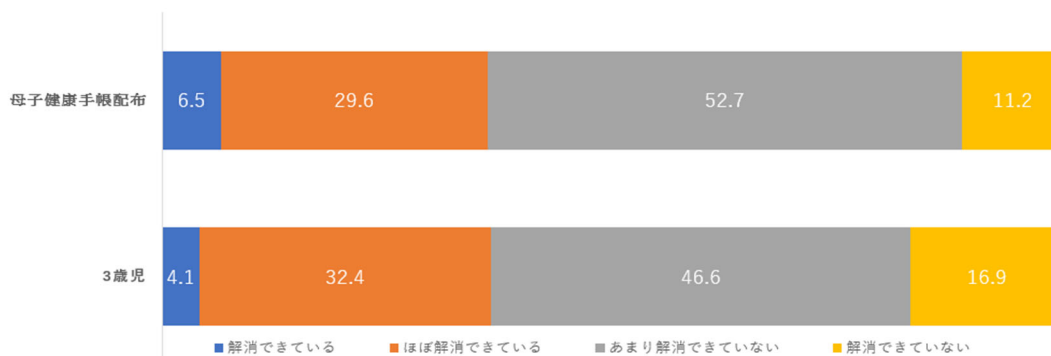
**4-3. 父親像のモヤモヤ**

父親像に関してモヤモヤした経験は「同じ境遇にいるパパ友が少ないこと」21.4%、「父親のロールモデルが身近にいない」14.0%、「父親らしさを求められること」12.4%などの項目が多かった。そのモヤモヤは「解消できている」が2.2%、「だいたい解消できている」が12.8%で半数以上が解決できていなかった。

**Q. 父親像に関して、モヤモヤした経験はありますか。下記から経験あるものすべてを選択してください。**



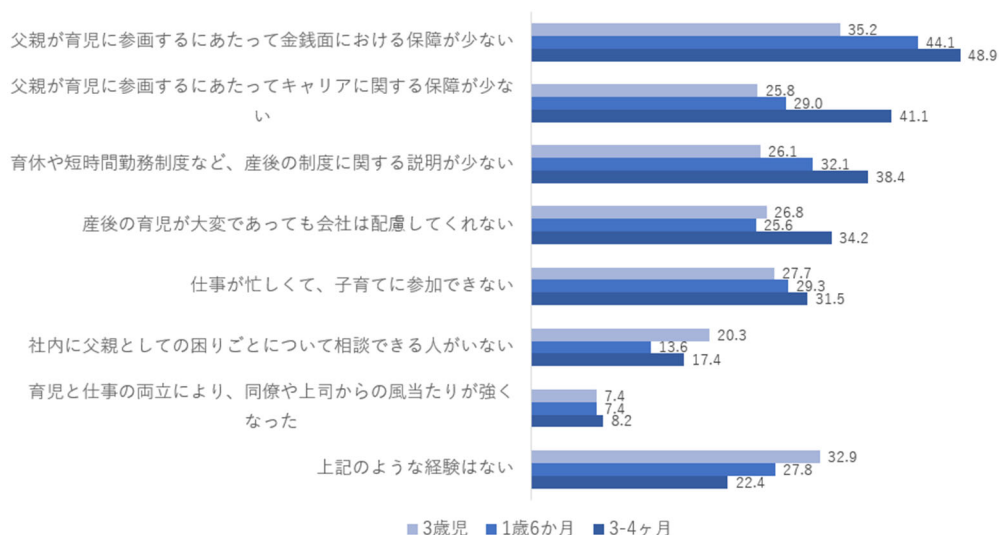
**Q. 父親像に関して経験したモヤモヤは、解消できていますか？**



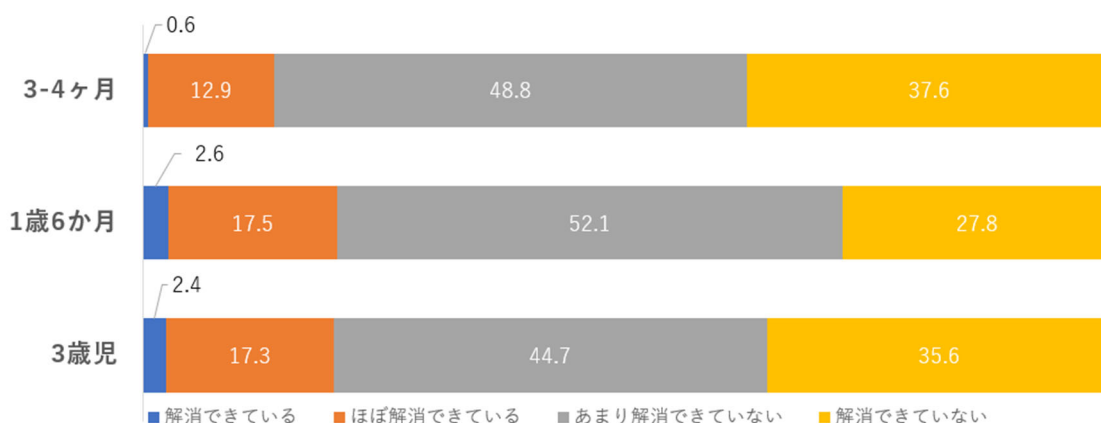
#### 4-4. 職場に関するモヤモヤ

職場に関するモヤモヤはおおむね子どもが大きくなるにつれて減少していた。特に「父親が育児に参画するにあたって金銭面における保障が少ない」は3-4 か月健診時 48.9%、1歳6 か月健診時 44.1%、3歳時 35.2%と減少傾向であったが、他の項目より多くの父親がモヤモヤを感じていた。それに続いて「父親が育児に参画するにあたってキャリアに関する保障がない」41.1%(3-4 か月健診時)「育休や短時間勤務制度など、産後の精度に関する説明が少ない」38.4%(3-4 か月健診時)に関してもモヤモヤが多かった。職場に関するモヤモヤの解決は、子どもの年齢が上がるにつれて高くなる傾向があるが、「解消できていない」と「あまり解消できていない」をまとめると8割以上がモヤモヤを解消できておらず、職場のモヤモヤの解消は難しいことが示唆された。

Q. 職場に関して、この半年間にモヤモヤした経験はありますか。下記から経験あるものすべてを選択してください。



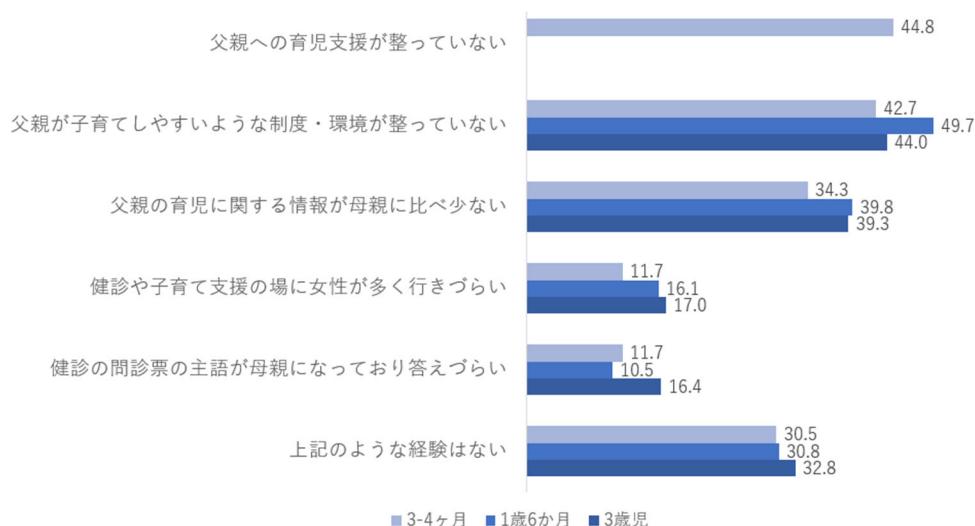
Q. 職場に関して経験したモヤモヤは、解消できていますか？



#### 4-5. 社会制度に関するモヤモヤ

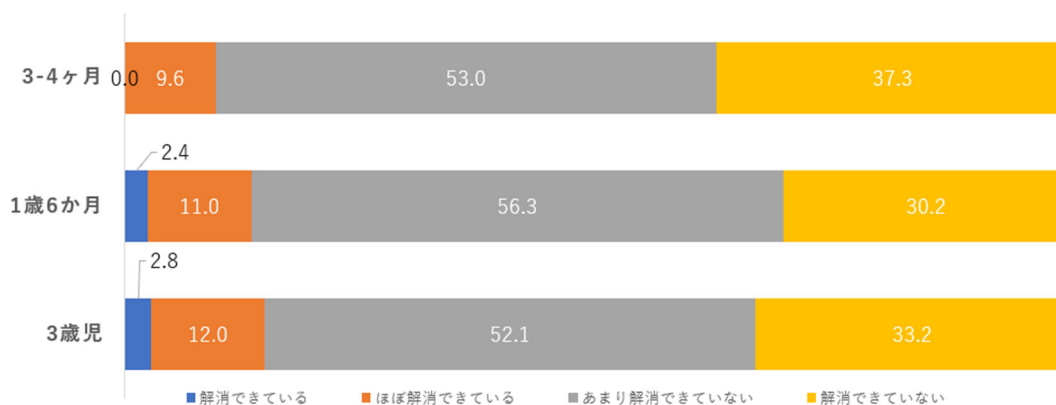
社会制度に関するモヤモヤは子どもの年齢に関係なく「父親が子育てしやすいような制度・環境が整っていない」「父親の育児に関する情報が母親に比べ少ない」などが多く挙げられている。また社会制度に関するモヤモヤは解決されているかという質問に対して、いずれも 85%以上の父親がモヤモヤを解消できずにいることがわかった。

Q. 社会や制度に関して、この半年間にモヤモヤした経験はありますか。下記から経験あるものすべてを選択してください。



\* グラフの数値がないところに関しては該当する質問項目がなかったため表示していない

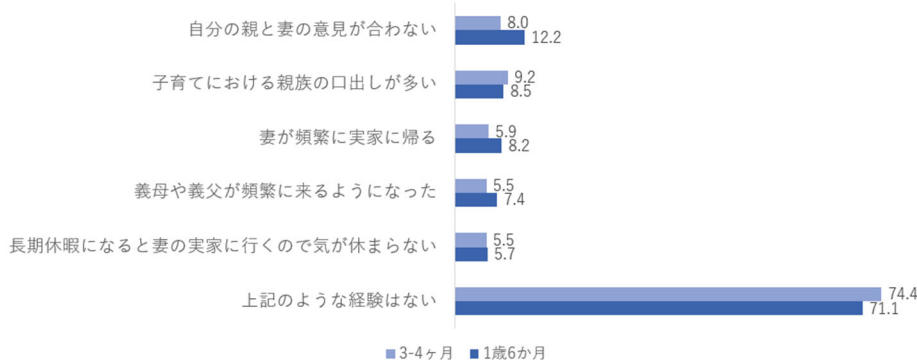
Q. 社会や制度に関して経験したモヤモヤは、解消できていますか？



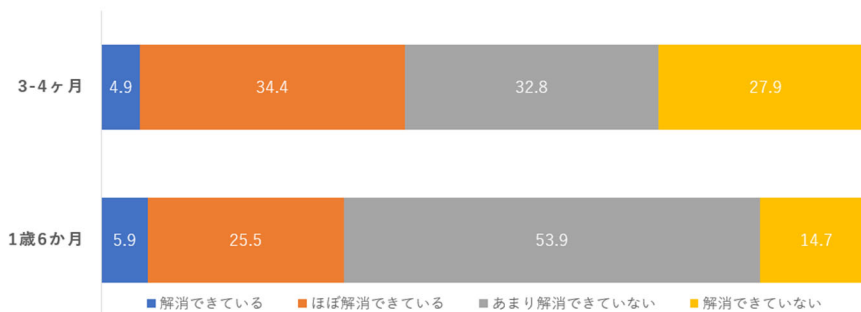
#### 4-6. 親族に関するモヤモヤ

親族に関して経験したモヤモヤでは、「自分の親と妻の意見が合わない」「子育てにおける親族の口出しが多い」などがあげられる。また、上記のような経験がない人も全体の 7 割以上いることがわかる。親族に関して経験したモヤモヤが解消できているかという質問に対しては、3-4 か月健診時では約 6 割、1 歳 6 か月時では約 7 割が解決できていないことがわかる。

Q. 親族に関して、この半年間にモヤモヤした経験はありますか。下記から経験あるものすべてを選択してください。



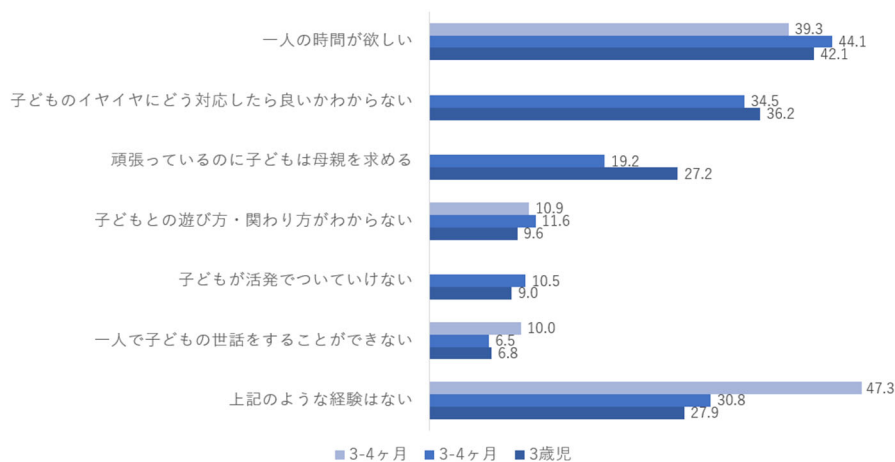
Q. 親族に関して経験したモヤモヤは、解消できていますか？



#### 4-7. 子育てに対するモヤモヤ

子育てに対するモヤモヤでは「一人の時間が欲しい」「子どものイヤイヤ期にどう対応したら良いかわからない」「頑張っているのに子どもは母親を求める」などがあげられ、子どもの年齢が上がるにつれて増えていった。これらのモヤモヤは、1歳6か月時で約6割の人が解消できておらず、3歳時では7割の人が悩みを解決できていない状態である。

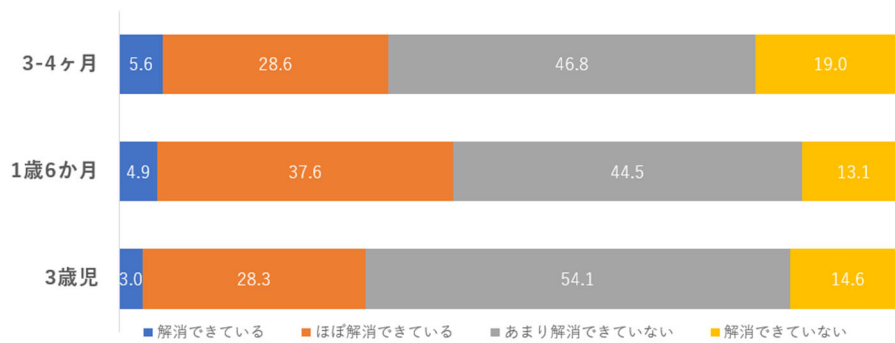
Q. 子育てに関して、この半年間にモヤモヤした経験はありますか。下記から経験あるものすべてを選択してください。\*



\* グラフの数値がないところに関しては該当する質問項目がなかったため表示していない



**Q. 子育てに関して選択したモヤモヤは、解決できていますか？**



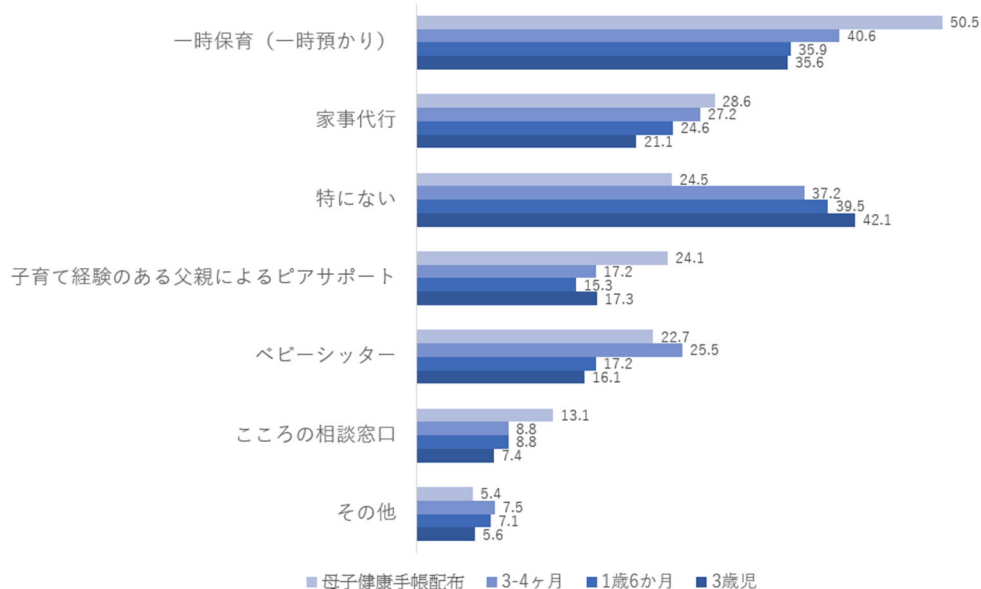
**5. サービス・家事育児の実態と理想について**

家事・育児を支援するための自治体のサービスとして、一時保育（一時預かり）や家事代行を求める父親が多かった。家事・育児を支援するための親族・知り合いからの支援・サポートとしては、妻の精神面へのサポートを求める声が多かった。父親自身のための支援というより、夫婦・家族全体への支援を望んでいることがうかがわれた。

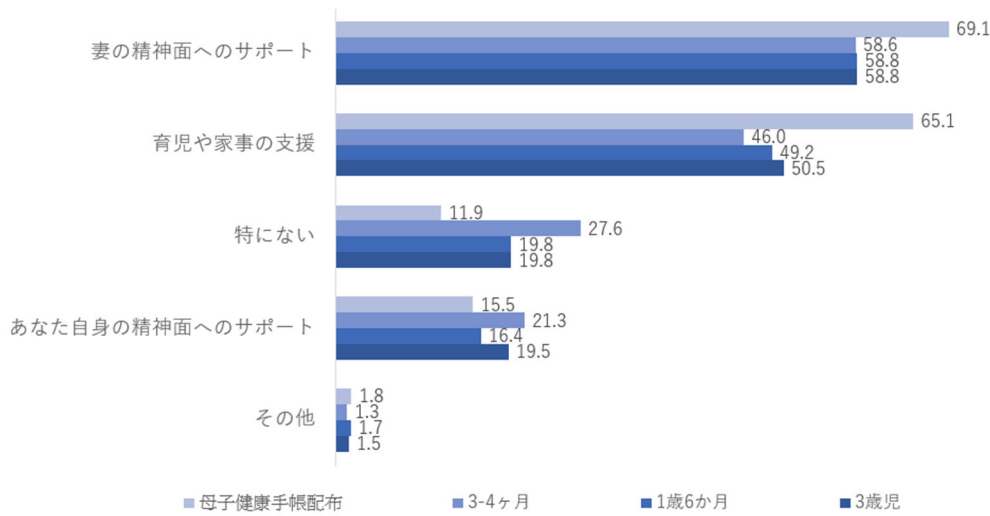
**6. 行政や家族に求める支援・支援ニーズ**

自治体のサービスとしてあったら良いと思うものでは「一時保育」がもっとも多く、「家事代行」がそれに次いで多かった。子どもの年齢が上がるにつれてサービスのニーズは減ってくるのがわかる。また、親族・知り合いからの支援・サポートでは「妻の精神面へのサポート」がもっともニーズが高く、「育児や家事の支援」がその次に多かった。これらのニーズは特に子どもが生まれる前（母子手帳交付時）に高いことがわかる。

**Q. あなた自身やあなたの子育てを支援するために、自治体のサービスとしてあったら良いと思うものを、下記からすべて選択してください。**



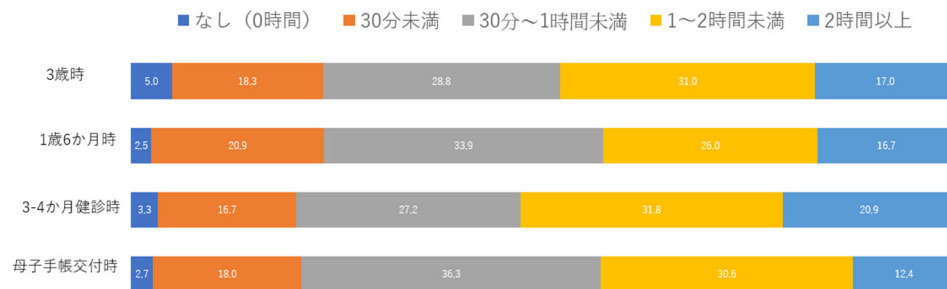
Q. あなた自身やあなたの子育てを支援するために、親族・知り合いからの支援・サポートとしてあったら良いと思うものを、下記からすべて選択してください。



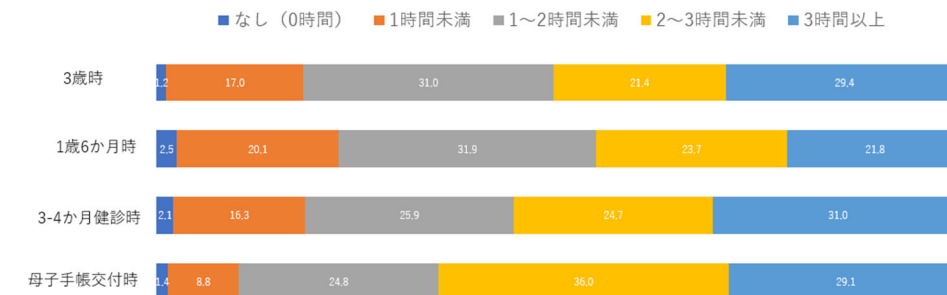
## 7. 家事・育児について

Q. あなたは家事に1日何時間くらい費やしていますか。

### 7-1. 平日

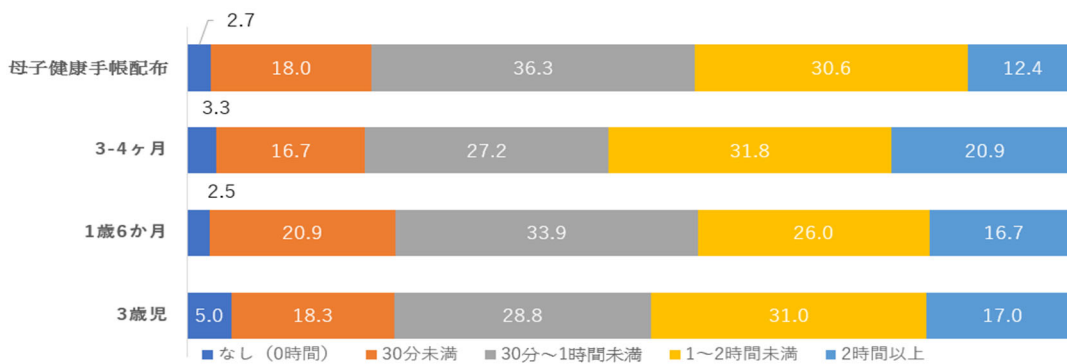


### 7-2. 休日

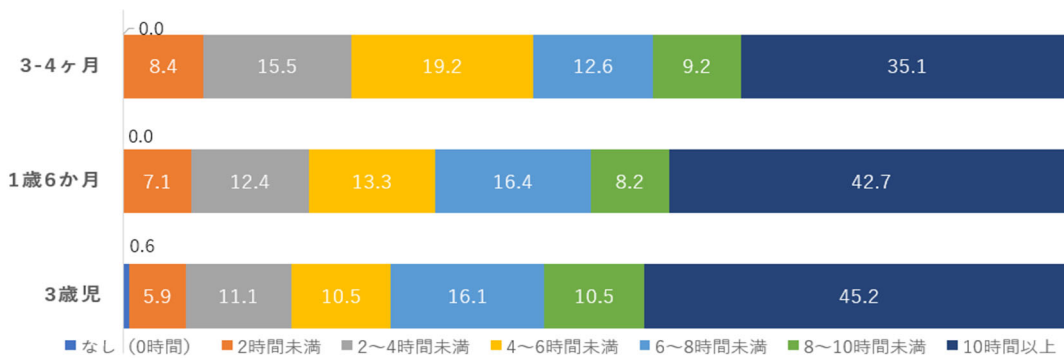


## Q あなたは育児に1日何時間くらい費やしていますか

### 7-3. 平日



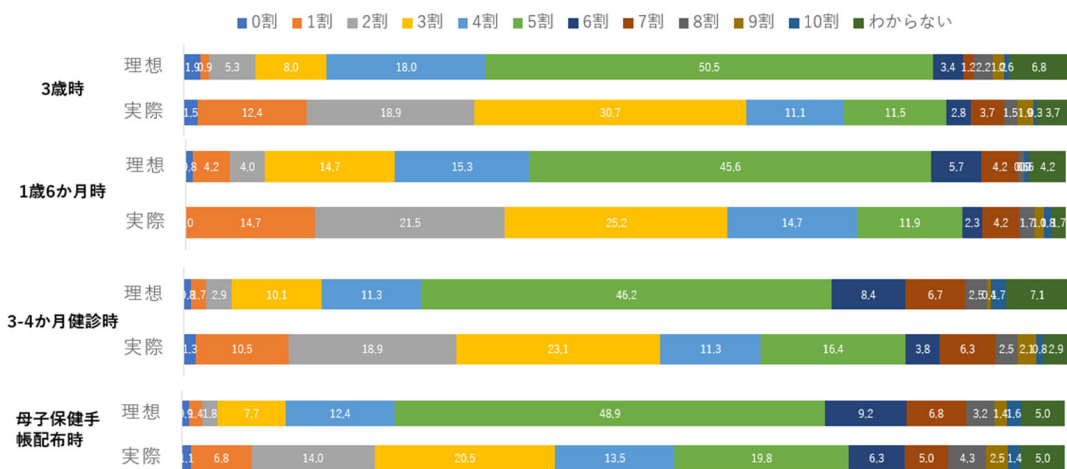
### 7-4. 休日



### 7-5. 家事の役割分担

家事の役割分担に関して、どの年齢の子どもを持つ父親も理想では5割程度分担したいと思っているが、実際には3割程度の家事を分担している父親が半数以上を占めていた。

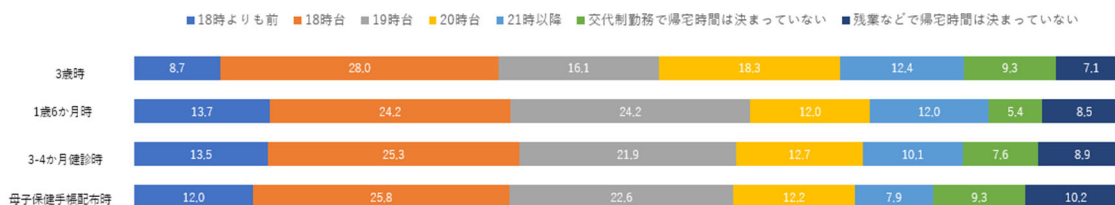
Q あなたと妻の家事の分担のうち、あなたの分担は実際どれくらいでしょうか。また、状況が許せば何割くらい分担するのが理想だと考えていますか。



## 7-6. 帰宅時間

帰宅時間は、母子健康手帳交付時、3-4か月健診時、1歳6か月健診時では18時台が最も多く、25%ほどを占める、次に19時台が多い。3歳時では最も多い帰宅時間は18時台で28.0%、次に20時台で18.3%という結果になっている。

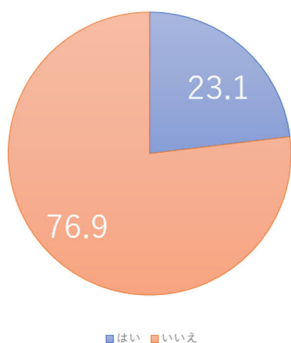
Q 仕事のある日の帰宅時間で、最も多い時間帯を選んでください。(1つ選択) ※自宅が仕事場の場合は、仕事が終わる時間を選択してください。



## 7-7. 育休取得

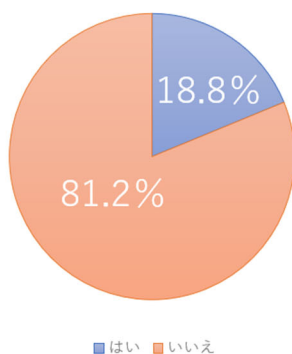
育児休業の取得を希望した父親は全体の23.1%で実際に取得した父親は18.8%であった。3-4か月健診時の父親で希望した育児休業の日数が30日で実際に取得した育児休業の日数も30日であり、育児休業を希望して実際に取得できた人ではおおむね希望した日数の育児休業が取得出来ていることが分かる。

Q 今回、健診を受けたお子さんの育児にあたって、育児休業の取得を希望されましたか？希望された方は、どのくらいの期間取得したいと考えていましたか？



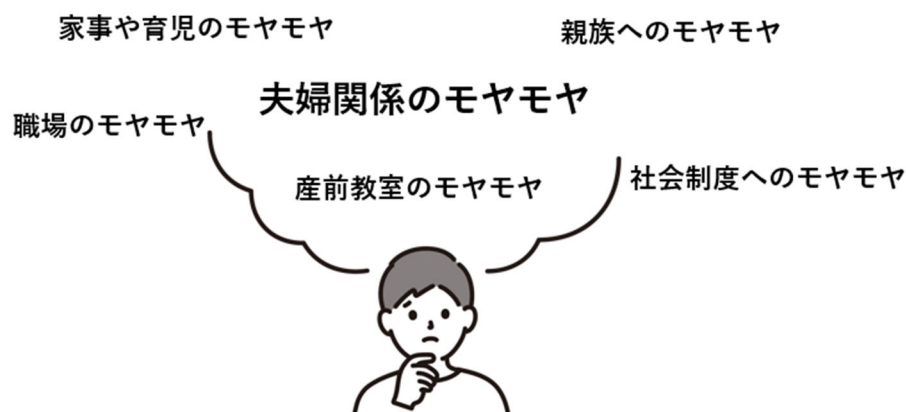
	中央値	(四分位：日)
3-4か月健診	30	(10-90)
1歳6か月健診	30	(7-90)
3歳時	14	(5-31)

Q. 最終的に育児休業は取得できましたか？(現在、取得中とこれから取得予定を含む) 取得できた方は、期間もお答えください。



	中央値	(四分位：日)
3-4か月健診	30	(7-70)
1歳6か月健診	30	(5-75)
3歳時	14	(5-39)

## 産前教室のモヤモヤ



### まとめ・結語

今回の Web アンケート調査を通じて、父親の生活状況や、家事・育児に対する価値観、求めている具体的な支援ニーズなどが明らかになった。さらに、父親が様々な場面でモヤモヤしていること、特に夫婦関係におけるモヤモヤはその種類も頻度も多いことがわかった。職場に関するモヤモヤや、社会制度に関するモヤモヤは、父親本人の努力で改善することが難しいためか、モヤモヤの解消に至らないことがほとんどであることが示された。

今後、父親支援を実施する際には、父親のモヤモヤや、支援ニーズをより把握していくことが重要ではあるが、本調査の結果を見て、父親に接する際のきっかけとなったり、父親の共感を得たりすることにつながれば幸いである。

### 謝辞

本調査にご協力いただきました、自治体の関係者の皆様、ご回答くださった対象者の皆様に深く感謝申し上げます。本研究は厚生労働科学研究費補助金事業「わが国における父親の子育て支援を推進するための科学的根拠の提示と支援プログラムの提案に関する研究」の活動の一環として実施されました。

研究メンバー（順不同）：

阿川勇太、上畑ひなた、可知悠子、木内翔太、小崎恭弘、須藤茉衣子、高木悦子、新村美知、竹原健二